

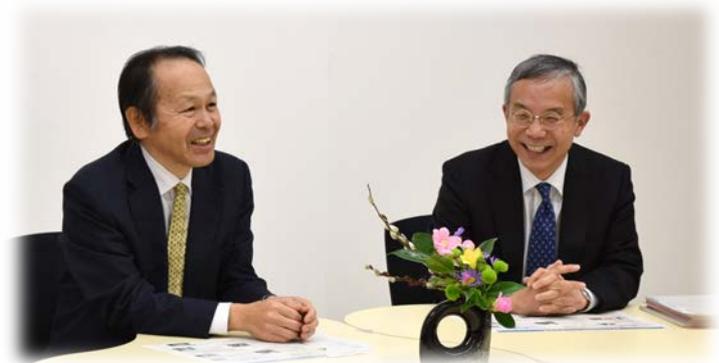
共に創る図書館

～館長対談シリーズ⑩～

河村理工学部長との対談

吉本 本日は、理工学部長の河村先生からお話をお伺いします。よろしくお願いいたします。岐阜県の可児市のご出身とお伺いしましたが、ご経歴をお伺いしてもよろしいでしょうか。

河村 最初は愛知県に住んでいましたが、高校1年の時に転居したので、熱田高校まで片道2時間かけて通っていました。自宅からは御嶽山がきれいに見えまして、大学も自然豊かな信州大学へ進みました。



野口英世やキュリー夫人、鉄腕アトムの影響

河村 理学部を選んだきっかけは中学生の頃の理科の先生の印象が強かったことや、小学生の頃に父親が買ってきてくれたシリーズ本の中にあった野口英世やキュリー夫人の伝記本から強く影響を受けたことなどがあります。また当時はTVアニメーションの鉄腕アトムなども毎週見っていました。

信州大学時代の下宿の隣室に日本史を学んでいた先輩がいて、私も古文書の写真現像の手伝いなどをしていたことがありました。その先輩の部屋に専門書がうず高く積まれた様子を見てあこがれを持つようになり、私も自然に大学院で研究することを選びました。また、東北大学大学院を選んだ理由は、ムック本の中にとってもユニークな総説を書かれていた東北大学の先生がいらっしゃいまして、その内容に非常に興味を持ったということです。

図書館の思い出

吉本 図書館の思い出はどのようなことがありますか。

河村 先ず、信州大学の図書館では専門書がたくさんありましたので、有名な教科書を何回も借りました。私の専門の化学の分野では専門書によって書きぶりが異なる場合があり、教科書以外の色々な専門書も読んで自分なりの考え方を見つけるということが必要になってきますので、その時に図書館が非常に役に立ちました。

東北大学の図書館では、学部の図書室が非常に充実しており、Chemical Abstractsなどをよく利用しました。アメリカのイリノイ大学にポスドクで1年半いたことがあります。その時も化学の図書館は非常に充実していたのでよく利用しました。また、化学の図書館のすぐ隣には音楽図書館があり、そこには日本ではめったに見られない古い楽譜などもあって見せていただいたこともあります。

徳島大学へ赴任した際には、当時から応用化学の教室にChemical Abstractsが揃っていたのでそれもびっくりしました。本学の化学の先生方の先見の明によって図書の充実が図られていたということを感じました。図書館本館の書庫もよく利用しましたし、また蔵本分館では古い化学の書籍が非常に充実していましたのでそちらもよく利用しました。その他、インターネットが普及し始める前には学術文献サービスのDIALOGというものがありましたので、図書館の方には文献検索で大変お世話になりました。

理工学部への改組 社会のニーズに応える学部へ・・・

吉本 工学部を改組して、新たに理工学部を設置されましたが、学部の様子をご説明いただけますか。

河村 工学部は歴史もあり、同窓会組織である工業会には約3万5千人に上るメンバーの方で構成され、その中にはノーベル賞を受賞された中村修二先生や日立製作所の社長などもいらっしゃいます。現在工業会の中に、Top & Executive, Tokushima & Engineering ということでT&E会というものを作っています。T&E会で

は、企業のエキスパートとして役員等を経験された方に集まっていたいて連携を図っています。

徳島大学の工学部は大正11年（1922年）に徳島高等工業学校として発足し、昭和24年の新制徳島大学設置の時に工学部となりました。大きな特徴としては日本の薬学の祖である長井長義博士の進言により、設立時には、工学部の中に製薬の分野があり、これは全国的にも例を見ないものでした。この度、現代の社会のニーズに答えられるようにという方針で、理工学部へ改組することになりました。理工学部は、工学部の生物工学科を除く学科と総合科学部の理系分野が融合して設置されました。学生数は、工学部の時は昼間の定員が555名でしたが理工学部になって550名、夜間主は50名の定員から45名へと変わりました。



理工学部長 河村 保彦

1年の時は入学時の希望や入試の成績により理工学部理工学科の各コースへ配属され、1年生の間に指導教員や上級生等との相談、自分の適性や興味を考えてコースを決定します。このコース配属の仕組みは学生が自由にコースを移れるということの他に、大学に入ってこれで安心ということではなく、ある一定レベルの成績を維持して希望するコースで学び続けることや、さらに成績が良ければ条件次第で希望に合致する別のコースへということも可能です。従来工学部ではミスマッチングが時折生じており、そういうものの是正ということも必要でした。改組においてはネーミングも苦労しましたが、受験生、親御さん、そして社会の方々にとって分かりやすいということが重要だと思いました。

従来工学部ではミスマッチングが時折生じており、そういうものの是正ということも必要でした。改組においてはネーミングも苦労しましたが、受験生、親御さん、そして社会の方々にとって分かりやすいということが重要だと思いました。

理工学部の学習環境

吉本 理工学部は学生数も多いですが、学習環境はいかがでしょう。

河村 理工学部の共通講義棟は学部を横断して活用できますので、理工学部だけでなく生物資源産業学部や総合科学部の皆様もこの教室を活用していますし、学習環境、教育環境という意味では充実していると思います。またすぐ近くに附属図書館本館がありますので、学生にとって非常に便利だと思います。

自習室や実験室、作業室等は、理工学部の各コースにそれぞれあります。しかしこの度の改組によって例えば情報システムコースのように、工学部の時は情報情報工学科と光応用工学科と別々だった学科が一つになったコースの場合は、従来の倍近くの学生が一つの教室で実習や端末利用をすることになり、現在のキャパシティでは対応できないという問題も生じています。

幅広い研究分野 多種の研究設備 外部からの支援

吉本 理工学部の研究環境については先端的な研究も色々されていると思いますし、外部からのサポートもあると思いますがいかがでしょう。

河村 理工学部は、自然科学の基礎から理工学の応用までと分野が非常に多岐に亘っていき、多種の研究設備も必要となり、それぞれのコースで専門の設備を所有しています。蔵本地区では共用機器という方法が先行していますが、同じように常三島地区でも研究機器の観点が今後変わってくると思います。

外部からのサポートとしましては、JSTの支援を頂きまして、とくしま地域産学官共同研究拠点があり、先進的な設備が整っていますので、そういうものも利用可能になっています。

また、理工学研究部に総合技術センターがあり、技術職員が50名近くいますので、教養教育院、総合科学部、理工学研究部や生物資源産業学研究部への支援もいただいています。また組織の運営に加わっていただいている方もいらっしゃいます。そのような方々の幅広い支援が非常に貴重だと思います。

科学体験フェスティバルによる地域連携等

吉本 地域連携や社会貢献についてはいかがでしょう。

河村 地域連携等においては多くの方に多様なご支援を頂いており、中でも「科学体験フェスティバル」は、今



附属図書館長 吉本 勝彦

年で第20回となり2日間の日程で9千名を超える方々にご参加いただきました。またこの「科学体験フェスティバル」は昨年秋に「徳島県科学技術憲章」に基づいて科学技術理解増進部門で県科学技術大賞受賞の栄に浴しました。

その他、出前科学実験講座があります。これには総合技術センターや創成学習開発センターの職員が地域の小学校や中学校を回って実験をしています。またオープンキャンパスでの理工学体験大学講座や、地域の企業の方向けのエンジニアリングフェスティバル、徳島県立工業技術センターとの連携などもあり、技術相談等にも応じています。広報がまだ弱いところがありますが、中にはポスターや展示を見ていただいて徳島大学を支援していただくこともあります。また、工業会との連携や、農林水産の関係では様々な連携研究や共同研究なども進んでいます。

学生は自分の教科書だけでなく他の書籍も読むべきです

吉本 図書館では学習支援に軸足を置いて3年目になりますが、調べる支援、読む支援、書く支援のために様々な取り組みを行っています。理工学部ではテクニカルライティングについてはどのように対応されていますか。

河村 ライティングについては、個別指導というよりも組織的にアカデミックに行えるといいですね。

吉本 理工学部の方で学生図書に関する要望は何かございますか。

河村 初年次の学生には自分の教科書だけでなく他の書籍も見るように指導しています。世界的にこれとはどのような参考書や教科書は、充実していかなければならないと思います。また、学生が図書館へ行ったけど全部出払っていた、ということもありますので、特に初年次の学生向けの場合は、1冊は貸出可、もう1冊は貸出不可というようにしていただけるとありがたいですね。その他、SciFinderのようなデータベースが継続して整備されることが望まれます。



吉本 SciFinder は、研究的だけでなく教育的な意味合いを持っているので、授業の中でもSciFinderを使っていると、維持を訴える力も大きくなります。

河村 図書館でDIALOGなどのサービスが始まった時には、私自身本当に目から鱗が落ちる驚きでした。それ以前は1週間に1日は検索の日と決めて、蔵本分館の書庫にまる1日こもって文献を探したのですが、そんな大変だったことが、データベース検索では本当に簡単にできてしまいます。学生にはSciFinderを利用する前にぜひ一度図書館の書庫でChemical Abstractsを実際に関いて探すということを体験してほしいと思います。

吉本 今の学生は情報がいつでも当たり前に入ってくると思っていますが、財政的理由で将来電子ジャーナルが読めなくなるという状況になると、対応に苦慮するようになると思います。

河村 図書館のILLサービスは役に立ちますね。学生も困ったことがあったら聞きに来ますので、こういうサービスがあることを指導できますが、そういうことも含めて、SIH道場での図書館ガイダンスやStudy Support SpaceなどでILLというような仕組みがあるということをお話ししていただけるといいですね。図書館ホームページを見れば出ていますが、学生はなかなかそこまで行きつかないようです。

吉本 実際に図書館へ来て、少し困惑しながら探すというような実習を行っていただくといいですね。パワーポイントでの説明を聞いているだけではすぐ忘れてしまい、身に付きません。このようなものを授業で少しでも組み込めると情報リテラシー能力というのが身に付きますね。

河村 教員の立場に立ちますと、研究の上で電子ジャーナルだけに留まらず、どのような図書が所蔵されているかというような書誌情報を縦横無尽に利用できるというのがありがたいですので、そういう情報の整備を今後も継続していただけるとありがたいです。

図書館がオアシス的な存在であるといいですね

吉本 教員も気軽に図書館でも尋ねていただけるといいのですが。今はあまり図書館に足を運ぶ機会が少ないので、もっと図書館に来ていただけるといいですね。

河村 先ほど館内を案内していただいて、久しぶりに印刷された本がずらっと並んだスペースに来て、落ち着くと感じました。研究とか学習だけではなく、オアシス的な存在であるといいと思います。

電子ジャーナル

吉本 資料整備、電子ジャーナルに関していかがでしょうか。

河村 現在のように運営費交付金等が厳しい状況では受益者負担も考えざるを得ないような状況ですが、大学として基本的な、大学に所属している教育・研究者、研究分野をサポートするというのが大学の機能であると思いますので、できるだけ大学図書館の間のコンソーシアム等での連携を深めて強い交渉力を持って臨んでいただけることを望みます。

吉本 国公立の大学図書館が一緒になってコンソーシアムを作って外国の出版社と交渉していますが、残念ながら値上がり率を何パーセントに抑えられるかという程度の力です。一番望ましいのは国として交渉していただくことですが、大学間の差がありますので難しい状況です。海外でもこのような大手出版社へ対抗する手段として、投稿をしない動きや、自前の出版物へ投稿しようという動きもあります。国内では円安傾向や消費税課税によって急に大幅に値上がりしましたので他の国より厳しい状況です。国立大学長の会議や図書館の会議でも声明を出しているのですが、なかなか難しいですね。

河村 世界の超有名大学が投稿を止める動きというのも納得できる方法ですね。またオープンジャーナルの推進や機関リポジトリの充実といった対抗手段も必要ですね。大学のジャーナルというのは、研究や開発においては死活問題になりますので、国の枠組みを超えた取り組みというのが必要かもしれません。

図書館への要望

吉本 図書館に対する要望はございますか。

河村 館内を案内していただいた際に、図書館で様々な取り組みをされていることが分かりました。最近は、図書館で古本募金を始められたとのこと。少し異なりますが、上級生が使った本を下級生に譲るような仕組みもあるといいと思います。私もアメリカに滞在中にそのような本をたくさん買ったことがありますが、中には名前を砂消しゴムで消した跡があるものもありました。その他に、体に障害を持つ学生に対応したノートもあればいいと思います。アメリカではその学生に専任の人を付けたり、講義ノートの販売等もしていました。

吉本 図書館でも自己収入の拡大や地域にどのように貢献していくかという課題があります。徳島市立図書館や徳島県立図書館とも連携を図っていますが当然マンパワーも限られています。

河村 地域の図書館ということで地域社会に向けてということもありますが、やはり基本的にはまず大学附属図書館としての機能の維持・充実が重要かと思います。図書館ではいつもカウンターで、非常にフレンドリーに対応していただいているのでありがたいと思います。

吉本 本日はありがとうございました。

